

第8回 会長の時間 ロタリーの友月間について H28.9.8

先週は、ロタリー特別月間として「基本的教育と識字率向上」についてのお話をしましたが、日本では、「ロタリーの友月間」も同じ9月になっていますので今回はこちらについてお話しします。

日本の公式機関誌「ロタリーの友」は1953年(昭和28年)1月に創刊されました。当初の発行部数は3300部でしたが徐々に増えて、1997年度には約17万部とピークをむかえましたが、その後減少し2016年(平成28年)6月号は約9万5700部でした。この「ロタリーの友」は、1980年(昭和55年)にRI公式地域雑誌の認定を受けました。ちなみに2015年7月から1年間の収入実績として購読料は月平均1862万円であり、読まれざるベストセラーとも揶揄されております。

さて、「ロタリーの友」は、1952年(昭和27年)に大阪市で開催された地区大会で、翌年度から日本のロタリーが2地区すなわち東の第60地区と西の第61地区に分割されるにあたり、両地区の連絡を緊密に行い情報の共有化をするための機関誌として企画されました。

しかし創刊に至るまでは、両地区でかなり意見の隔たりがました。西の61地区は謄写版刷りの簡単なものでいいから早く発刊をという案を提出したのに対して、東の第60地区は謄写版では手軽すぎて耐久性がないので、初めからある程度きちんとしたものをとという案を提出し、東西合同会議が開かれ東京案と大阪案を各クラブに提示してアンケートまでとり、その結果を総合勘案して発行所は東京、編集委員は合議制とし、定価は50円に決定しました。しかし活版印刷ひらがな横書きが採用されたため、原価が93円75銭と上昇し、最初から予算不足は明らかで、広告を取ってなんとか不足分を補ったそうです。

「ロタリーの友」の名前は、1952年8月岐阜市の長良川河畔にあった大竹旅館での会合において、岐阜クラブの遠藤健三氏による名称が採用されましたが、その由来は当時の女性雑誌「主婦の友」にあやかっただとか、あるいは「ビールの友」からきているという説もあるそうです。創刊号以後定価50円、1954年1月号から1962年まで定価100円、1963年1月号から1974年まで定価110円、1975年1月号から現在に至るまでの40年間、本体価格は200円のまま据え置いています。ただ、会員数の減少とともに発行部数の減少がありこの価格を維持するにはなかなか困難で、コンピューター編集への切り替えを行い、出版費や人件費等を削減するなど、徹底的な合理化を図っているそうです。

現在「ザ・ロータリアン」を含め、世界には31誌の地域雑誌がありますが、これを総評してロタリーワールドマガジンプレス(Rotary World Magazine Press)と呼ばれていますが、世界でおおよそ78万部の発行部数があります。『ロタリーの友』は、ロ-

ローター地域雑誌に指定されておりますので、従わなければいけない規則が幾つかあります。その一つが『The Rotarian』から、指定された記事を転載するというもので、それが「R I 指定記事」です。R I 会長や財団管理委員長のメッセージ、毎年8月号に掲載する「ローターの基本知識」、11月号、2月号、5月号に掲載している「GLOBAL OUTLOOK」がその代表的な記事です。皆さんはお気づきとは思いますが、当初サイズは、B5サイズでしたが、創刊50周年を迎えた2003年からA4変形判に変更し、更に今年の7月号から正式のA4サイズになりました。また、2013年規定審議会で、ローター地域雑誌に関して、会員は印刷媒体か電子媒体のいずれかを選択して購読することができるようになりました。それを受けて、ローターの友事務所では、電子版の『友』を2014年1月号から発行しています。

皆様ご存じのようにローターの三大義務は、「例会の出席」「会費の納入」とそして「ローター雑誌の購読」であります。毎月定期的に手元に届く『ローターの友』は、最も効率よくローター情報を得ることができ、世界中の会員の意見や体験談を見たり読んだりすることができる、ローター共有の宝物だと思います。この月間に際して、是非ページを開いて頂き、私たちのクラブの実際の活動に生かして欲しいと思います。本日は「ローターの友」についてお話をしました。